



### 妙高山参詣登山の御影札 (ごえいふだ)

江戸時代の参詣登山の際に関山宝蔵院から登山者に配布されていた護符。山頂に祀られていた阿弥陀三尊像を中心に「山」の字の雪形が配置されている。旧暦の6月23日を登山日と定め参詣登山が行われた。

この御影の版画には「寛保3年(1743)最鎮刻之」と記されている。

山頂の  
阿弥陀堂参り  
御影札



### 大洞原の開拓碑

大洞原の開拓40周年を記念して、昭和62年(1987)に建立。大洞原は戦後の食料不足と戦地からの引揚者の失業対策として開墾され、25戸の開拓者たちが、野菜栽培と酪農経営に力を注いできた。トマトの抑制栽培によって、「高原トマト」として高い評価を得て販売されている。

大洞原の  
歴史を語る  
開拓碑



### 社号標

関山神社の社号標は安政6年(1859)に建てられた。江戸時代までの神を仏の化身とみなす「権現」の文字は、明治の神仏分離政策によって姿を消し、かつての関山権現社は「関山神社」に改名された。参道入り口に立つ社号標も「権現」の文字が「大神」に削り直された。

神社の標札  
「権現」改め  
「大神」に



### 不動滝 (別名 大滝)

関温泉の東側を溪谷に向かって進むと、落差20mの滝が流れ落ちている。滝の周辺は新緑から紅葉まで美しく、いやしのスポットとなっている。また滝は水神の化身であるとされ、不動明王の石像を祀る御堂がある。昔、山伏が修行したといわれている。

散るもみじ  
小路の先は  
不動滝



### 大鹿神社の御神木

杉の御神木は大鹿神社のすぐ脇に立っている。根元近くの周囲が9m、途中で3本に分かれている巨木である。樹齢は不詳。小学2年生の児童15人が手をつないでやっと囲める大きさである。しめ縄をつけた御神木は信仰の対象にふさわしい威権を放っている。

杉の御神木  
みんなて手つなぎ  
木をかこむ



### 惣滝「日本の滝百選」の一つ

燕温泉の奥の惣滝は、標高1,300mの大倉沢にあり、落差80m。「日本の滝百選」に選ばれた滝は迫力があり、ここでも滝行が行われていた。江戸時代の妙高登山道沿いには、他に称名滝、光明滝があり、不動滝と宝蔵院の滝も含め、祈りといやしのパワースポットとなっている。

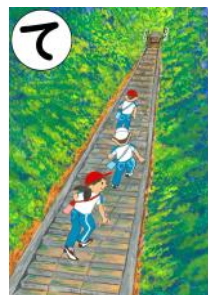
燕の惣滝  
落差大きく  
百選の滝



### 関温泉・燕温泉

関温泉は神奈山の東麓、標高900mに位置し、温泉の色は茶褐色でアルカリ性である。一方、燕温泉は妙高山の東麓、標高1,100mにあり、硫黄泉で乳白色。二つの温泉地は近くにあるが「赤湯」と「白湯」の特色があり、かけ流しの温泉として観光の大切な資源である。

関の赤湯に  
燕の白湯  
紅白めでたい  
温泉地



### 寺尾薬師

寺尾集落から急な石段を登った先に、寺尾薬師がある。元々は高床山にあった薬師だが、その後、御前清水の地を経て寛政元年(1792)に寺尾に御堂が建立されて遷座した。本尊である薬師如来像は、杉材の寄木造りで、室町時代の地方仏師の作とされる。

寺尾薬師  
九十九段  
登りつめ



### 宗祇の句碑

室町時代を代表する連歌師の宗祇は、文明10年(1478)に関山を訪れ、連歌会の発句で、庭園の美しさと霊峰妙高で修行する人々の精神、心を詠んだ。この句は宗祇自選の句集「老葉(わくらば)」「宇良葉(うらば)」に収められている。句碑は平成6年(1994)に建立。

宗祇句碑  
水にすむ  
心やみ山  
あきの庭



### 坂口新田

坂口新田は三代将軍徳川家光の命により誕生した。家光の使者が高田藩に向かう途中、大田切で猛吹雪にあい、二俣宿に戻り三日間足止めにあった。それが家光の耳に入り、難儀救済のため、慶安元年(1648)にくじ引きで関山宿と二俣宿から3軒ずつ選ばれて村ができた。

殿様が  
ここに  
つくれと  
坂口新田